



山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。

# 森林やまがた

No.175

2018. 4



## 目次

平成30年度山形県森林・林業・木材産業施策の展開方向… 2  
 「やまがたの公共建築物等における木材の利用の促進に関する基本方針」の変更について… 4  
 山形県の山地災害危険地区について… 5  
 平成30年山形県山火事防止運動について… 5  
 やまがた山菜利用促進研修会開催… 6  
 山形県林工連携コンソーシアム研修会の開催… 6  
 「森林の仕事ガイダンスinやまがた」を開催… 7  
 やまがた木育推進方針を策定しました… 8  
 フォレスト通信  
 「一期生卒業」「二期生就職活動・卒業論文」… 9  
 みどりのページ  
 平成29年度緑化推進事業研修会  
 「緑のふるさとづくりセミナー」開催… 10  
 県民の森・源流の森がまもなくオープンします！… 11

普及情報  
 森林研究研修センターにおける  
 平成30年度の研修について… 12  
 森林組合長に聴く… 13  
 森の人紹介  
 小室晃一さん・田中晴樹さん… 14  
 森林組合理事・幹部職員研修会の開催について… 15  
 むらやま版・木のある生活推進事業の取組み… 15  
 第3回もがみ木質バイオマス熱利用検討会開催… 16  
 広葉樹安全伐倒技術及びチェーンソー目立て研修会の開催… 16  
 山形県木炭品評会・木炭講演会の開催… 17  
 木造建築促進研修会… 18  
 置賜森林ノミクス推進フォーラム2018の開催について… 18  
 温海町森林組合「ディスカバー農山漁村の宝」に選定… 19  
 人事異動… 20

# 業・木材産業施策の展開方向

## 3 「<sup>もり</sup>森林を活かす」

県産木材の新たな需要に対応するため、素材生産業者と製材業者など事業者間の連携を推進し、県産木材の安定的な流通体制を構築する。公共施設での県産木材の率先利用と、民間施設の木造化・木質化を推進する。さらに、山菜・きのこ等の特産林産物の生産振興、森林の多様な資源を活用した魅力ある地域づくりを推進する。

### (1) 県産木材の加工・流通体制の整備

- ・やまがた森林ノミクス推進事業費（県産製材品高度化促進事業）：事業者の製材 J A S 認定取得に対する支援
- ・やまがたの木利用拡大プロジェクト事業費：県産認証材の制度運用支援、県産木材普及啓発 等
- ・林業成長産業化総合対策事業費：木材加工流通施設等整備の支援

### (2) 県産木材の率先利用の推進

- ・山形の家づくり支援事業費：県産認証材使用住宅への助成、家づくりネットワークへの支援
- ・林業成長産業化総合対策事業費：木造公共施設や木質バイオマス関連施設等の整備支援
- ・やまがた森林ノミクス推進事業費（公共・民間施設木造化・木質化推進事業）：展示効果の高い民間施設（交通拠点施設等）の木造化・木質化に対する支援
- ・東京オリンピック・パラリンピック木材供給事業：選手村ビレッジプラザへの木材供給

### (3) 森林資源等の多様な利活用の推進

- ・やまがた森林ノミクス推進事業費（林工連携推進事業）：「山形県林工連携コンソーシアム」を運営し、林業と他産業の連携体制を構築して新たな技術・製品の開発
- ・やまがた森林ノミクス推進事業費（山の幸総合対策事業）：ブランド化戦略に基づく生産戦略や流通・コミュニケーション戦略、観光・交流戦略の実施

## 4 「<sup>もり</sup>森林を支える」

地域の森林整備の現場を担う林業技術者、木材乾燥や在来工法の継ぎ手加工などの技術者等の人材育成を推進する。また、県産木材の活用を推進する「しあわせウッド運動」を展開するとともに、県民参加の森林づくり活動を支援し、県民が森林の有する多面的機能及び木材利用の意義について理解と関心を深める木育等の推進により、森林資源を循環利用する県民意識醸成に努める。さらに、森林の保全や森林資源の循環利用に関する研究・普及に取り組み、森林の多面的機能の高度発揮と、適正な森林経営を技術面から支えていく。

### (1) 森林・林業・木材産業を担う人材の育成・確保

- ・林業技術向上対策事業費：林業技術者等の育成、森林総合監理士（フォレストラー）の育成 等
- ・緑の青年就業準備給付金事業費：県立農林大学校林業経営学科の学生への給付金の給付
- ・やまがた森林ノミクス推進事業費（青年林業士活動推進事業）：青年林業士の認定、活動支援

### (2) 森林資源を循環利用する意識醸成や森林や木に親しむ環境づくりの推進

- ・やまがた森林ノミクス推進事業費（やまがた森林ノミクス推進事業）：サミットの開催、PRグッズの作成、シンボルマーク商標登録、やまがた森林ノミクス推進会議の運営
- ・やまがた森林ノミクス推進事業費（やまがた木づかい運動推進事業）：県産木材の活用を推進する「しあわせウッド運動」の一環として、幼稚園等への木製品の配備
- ・県民の森管理整備事業（各総合支庁森林整備課）：県内4つの県民の森の維持管理・運営 等
- ・みどり豊かな森林環境づくり推進事業費：地域住民や市町村が行う森づくり活動等への支援（みどり自然課）

### (3) 森林の保全・利用等に関する研究開発 等

- ・試験研究費：森林環境の維持・管理技術の確立、低コストで生産性の高い林業技術の開発 等
- ・林木育種事業費：優良種子の安定生産、無花粉スギ・病害虫抵抗性品種等の開発 等
- ・林業普及指導事業費：試験研究成果の速やかな現地への普及・指導

## 《基本的な考え方》

本県の森林・林業等の現状や国の林業の成長産業化等の取組みを踏まえ、平成28年12月に制定された「山形県の豊かな森林資源を活用した地域活性化条例」（通称：やまがた森林ノミクス推進条例）に基づき、平成29年3月に改定した「第2次山形県森林整備長期計画」（H22～H31）の目標達成を目指して施策を着実に展開する。

その際、平成27年10月に策定した「やまがた創生総合戦略」（H27～H31）、平成29年3月に策定された「第3次農林水産業元気再生戦略」（H29～H32）及び「第3次総合発展計画短期アクションプラン」（H29～H32）とも整合を図りながら施策を推進する。

## 《施策の重点化と展開方向》

やまがた森林ノミクス推進条例に定める施策を基本として、第2次山形県森林整備長期計画（改定版）に基づき、①「森林を守る」、②「森林を育てる」、③「森林を活かす」、④「森林を支える」の4つの推進方向で、目標達成に向けて各種施策を体系的に展開していく。

### 1 「森林を守る」

水源かん養や県土の保全に重要な役割を果たしている森林の保全や、荒廃が懸念される人工林の整備、放置された里山林の再生など、森林の保全・管理を徹底し、求められる森林の機能に応じて、公益的機能を高度に発揮できる多様な森林づくりを推進する。さらに、山地災害を防止し、県民の安全・安心を確保するため、治山事業などの公的な森林整備により災害に強い森林づくりを進める。

#### (1) 森林の公益的機能の維持増進

・森林環境緊急保全対策事業費【やまがた緑環境税活用事業】：荒廃のおそれのある森林の整備面積1,160ha

#### (2) 保安林等の守るべき森林の保全・管理

・治山事業費：山地治山総合対策・水源地域等保安林整備・農山漁村地域整備交付金20箇所等  
・森林病虫害防除事業費：特別伐倒駆除988㎡、薬剤散布173ha、樹幹注入30本等

### 2 「森林を育てる」

林業の再生に向け、地域の関係者が連携して行う森林経営計画の作成を支援し、地域一体となった森林整備を推進する。そのため、「植える、育てる、収穫する、再造林する」という「森林資源の循環利用」が効率的に進むよう、地域にあった森林施業の体系を構築し、路網などの生産基盤の整備を行う。特に再造林については、循環利用の起点であり公益的機能の持続的発揮のため、森林所有者の負担を減らす新たな仕組みの構築や、再造林を前提とした伐採の普及などにより、再造林率の向上を目指す。

#### (1) 実効性のある森林計画の策定

・森林計画樹立事業費：地域森林計画の樹立・変更、森林情報管理システム再構築等  
・森林整備地域活動支援事業費：森林経営計画の作成や集約化施業に必要な森林調査等

#### (2) 県産木材の安定供給・再造林の推進

・森林施業支援事業費：森林整備（植栽・間伐・下刈等）、森林作業道開設支援  
・やまがた森林ノミクス推進事業費（再造林支援制度推進事業）：再造林に要する経費への支援、再造林推進会議の開催  
・林業成長産業化総合対策事業費：間伐、林内路網整備、高性能林業機械等の導入等支援  
・民有林林道整備事業費：林道・林業専用道開設9路線、林道改良2路線  
・県営林管理経営事業費：「山形県県営林経営計画」に基づく県営林の経営・維持管理等

# 「やまがたの公共建築物等における木材の利用の促進に関する基本方針」の変更について

## ◆公共建築物の木造化・木質化の推進

公共建築物の木造化や木質化を積極的に推進することは、木と触れ合い、木の良さを実感する機会を提供し、木材の特性やその利用の促進を図る意義について、県民の方々の理解を効果的に深めることができることから、県では自ら率先して公共建築物等における県産木材の利用の促進に努めています。

「やまがたの公共建築物等における木材の利用の促進に関する基本方針」(以下、「県の基本方針」とする。)は平成二十三年三月に、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律(平成二十二年法律第三十六号)」に基づき策定され、県では、この基本方針に基づき公共建築物の木造化、木質化に取り組んできました。平成二十三年以降に、この基本方針に基づき、県が整備した公共建築物としては、農林大学校交流棟・宿泊棟、村山特別支援学校、酒田特別支援学校等を木造で建築したほか、木造以外では東桜学館中学校・高等学校、山形工業高等学校について内

装木質化を図り県産木材の利用に努めてきたところです。



農林大学校交流棟・宿泊棟(木造)

## ◆県の基本方針の変更

この度、公共建築物等の木材利用を巡る情勢の変化を受け、国が「公

共建築物における木材の利用の促進に関する基本方針」を変更したことから、県の基本方針を変更したとします。



山形工業高等学校(内装木質化)

変更後の基本方針には、建築基準法の改正により、三階建ての木造校舎や延床面積三千㎡を超える木造建築について、一定の防火措置を行うことで主要構造部の木材を防火被覆せずに見せながら使える準耐火構造等でも建築可能となったことや、近年開発が進む木質耐火部材やCLT等の新たな部材を積極的に活用することを新たに盛り込んでいます。さらに、低層(概ね一〜二階建)の公

共建築物以外でも木造化について積極的に検討することなど、県産木材を利用するにあたって考慮すべき事項の内容を拡充しています。

また、平成二十八年に「合法木材等の流通及び利用促進に関する法律(平成二十八年法律第四十八号)通称・クリーンウッド法」が施行されたことを受け、合法伐採木材等の安定的な供給確保に努めることについて盛り込んでいくところです。

今後は、この基本方針に基づき、より一層、公共建築物の木造化・木質化に取り組んでまいりたいと考えています。

## 県が整備する公共建築物等における木材利用の目標

### ・木造化

低層(概ね1~2階建て)の公共建築物 (延床面積3,000㎡以下)	原則木造化
県産木材比率	90%

### ・内装木質化

床面積当たりの木材利用量 (100㎡当たり)	2.0m <sup>3</sup>
県産木材比率	70%

〔県林業振興課〕

# 山形県の山地災害危険地区について

## ― 山地災害に備えるために ―

### ◆ 山地災害危険地区とは

皆さんの町に山地災害のおそれのある危険な箇所がどこにあるのかを知っておくことは、災害に備えるためにとっても大切なことです。

このため、県や森林管理局では、このたび、十年ぶりにその実態を再調査し、今後の災害の未然防止を図ることを目的に、「山地災害危険地区（民有林）」の見直しを行いました。

### ◆ 種類

地形や地質・特徴等により、次の三つに分類されます。

#### 「山腹崩壊危険地区」

村山 一七三 最上 一一一

置賜 一五〇 庄内 一〇一

- ・ ときどき落石がある。
- ・ 過去に山くずれがあった。
- ・ 山腹の斜面に亀裂やわき水がある。
- ・ 急斜面で、軟弱な地盤がある。
- ・ 水の集まりやすい斜面地形である。

#### 「地すべり危険地区」

村山 八三 最上 一一四

置賜 六八 庄内 五八

過去に地すべりがあったところで、今も少しずつ動いている。

山の斜面に亀裂や段差がみられる。

湧水や地下水が豊富である。

断層やもろく、くずれやすい岩石がある。

#### 「崩壊土砂流出危険地区」

村山 三六〇 最上 一九六

置賜 三七二 庄内 三七六

過去に土石流があった。

・ 溪流が急で大きな石やたくさん  
の土砂がある。

・ 上流が山くずれなどで荒れている。

### ◆ 危険信号を見逃すな

山地災害危険地区の詳細については、最寄りの総合支庁森林整備課や各市町村で確認することができます。また、危険信号等詳細は、県ホームページの防災情報「山地災害に備える」に掲載しています。

最近、局地的な集中豪雨等による山地災害が多発傾向にありますので、日頃からの山地災害への備えにお役立てください。  
〔県林業振興課〕

# 平成30年山形県山火事防止運動について

## 小さな火 大きな森を 破壊する

### ◆ 山火事は春に集中

山火事の発生は、雪解けが始まる4月から5月上旬の、雨が少なく、空気が乾燥する時期に集中しています。近年の出火原因は、たき火等の人為的な不注意によるものが多く、春先は山菜採りやハイキングのために入山する機会が増えることから特に注意が必要です。

### ◆ 山火事予防のポイント

森林や森林の周辺では、次のことに気をつけましょう。

- ① 枯れ草などがある場所でたき火をしないこと
  - ② 火の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること
  - ③ 強風時、乾燥時には、たき火、火入れをしないこと
  - ④ たき火の吸殻は必ず消し、投げ捨てないこと
  - ⑤ 火遊びはしないこと
- また、野焼きは原則禁止されています。焼畑等の目的で火入れを行う際は、事前に市町村長の許可を得る必要があります。

ご近所同士での声掛けによる注意喚起により、適切に予防できるよう御協力をお願いします。

### ◆ 山形県山火事防止運動の実施

県では、平成30年4月1日～5月31日までを山火事防止運動の実施期間とし、ラジオ等での注意喚起や、広報車による宣伝活動を行います。また、森林組合に森林パトロールを委託し、日頃から森林を監視する体制を整え、早期発見、未然防止に努めるとともに、入山者に対して山火事予防を呼びかけていきます。

### ◆ おわりに

平成29年度は、全国で大規模な山火事が相次ぎ、本県でも焼失面積が20ヘクタールを超える山火事が発生しました。

万が一、山火事が発生したときは、森林保険の加入により損害の補償を受けることができます。詳しくは、お近くの森林組合または森林組合連合会へお問い合わせください。

山火事により失われた森林をもとの姿に回復するには、長い年月と多くの労力を要します。かけがえのない、大切な森林を守るため、山火事予防について御理解と御協力をお願いします。  
〔林業振興課〕



# やまがた山菜利用促進研修会が開催されました

山採り山菜の出荷時期を迎えるにあたり、山菜の利用促進を図るため、三月十三日に村山総合支庁講堂を会場として「やまがた山菜利用促進研修会」が、山菜・きのこ生産者など約六十名の参加により開催されました。

◆やまがた山菜きのこ名人登録証交付  
山形県山菜・きのこ振興会では、山菜・きのこに関する知識を有し、山形県の山菜・きのこの魅力を発信できる者を「やまがた山菜・きのこ名人」として登録しています。



登録証の交付状況

今回、講演に先立ち安達副会長より、六名の方に登録証とジャンパー等が手渡されました。

◆講演  
山形丸果中央青果(株)の村岡相談役より、「やまがた山菜の販売戦略」と題して講演をいただきました。

村岡相談役は、入社後から山菜・きのこを中心に野菜の取引に携わっており、特に県外内の山菜の流通について精通しておられます。講演は、山菜が県外でも売られるようになった経緯や生産現場の状況、食生活の変化による山菜のあり方、出荷形態の変化など、これまでの経験を踏まえた、貴重な内容となっております。〔県林業振興課〕



村岡氏による講演

# 山形県林工連携コンソーシアム研修会の開催

◆はじめに  
山形県林工連携コンソーシアムは、林業、木材産業、工業、建築関係事業者及び大学・研究機関等の相互の連携による、豊かな森林資源を起点とした新しい技術や製品の開発を目的として、平成29年9月15日に設立されました。

◆研修会について  
平成30年2月9日に、山形市内で山形県林工連携コンソーシアム研修会が開催されました。

研修会では、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 木材乾燥研究室長の吉田貴紘氏から「林業現場等における新しい技術・製品の試験・開発事例について」という演題により、御講演いただきました。

御講演では、森林総合研究所で行われている研究の概要についてのお話に引き続き、吉田室長が以前研究された木質チップ圧縮脱水装置の仕組みや、現在取り組まれている半炭化(トレファクション)による木材改質技術について、その特性や用途開発事例をお話いただきました。

参加者からは、「大変参考になった」、「林工連携への理解が深まった」といった声を多くいただいたほか、研修会場に展示された半炭化木質チップ・ペレットのサンプルに多くの参加者が集まるなど、木材の新たな利用につながる技術への関心の高さが伺えました。



## ◆おわりに

コンソーシアムでは、今後も引き続き研修会を開催し、会員の皆様へ林工連携に関する情報を提供してまいります。〔県林業振興課〕

## 「森林の仕事ガイダンスinやまがた」を開催

### ◆はじめに

県内においては昨年から大型の製材工場が本格稼働し、また、県内各地に木質バイオマス発電所が計画あるいは稼働し、木材の需要が急激に高まってきました。それにとともに、木材の生産現場では、担い手の確保と育成が急務となっています。

一方、雇用情勢は景気を反映して人手不足になっており、担い手の確保が難しい状況が続いています。

### ◆森林の仕事ガイダンスとは

林業の担い手の確保を図るため、林業労働力確保支援センター（詳しくは森林やまがた一七一号）では、今年度から初めて、緑の雇用事業を活用した「森林の仕事ガイダンスinやまがた」を開催しましたのでご紹介いたします。

森林の仕事ガイダンスとは林業への理解と林業就業のサポートを目的に、県内の企業が相談員となり、求職者、転職希望者や林業に興味を持つている人に対して、林業に関する疑問や質問に直接応える相談会です。

### ◆相談会の様子

相談会は今年の二月八日（木）午前十一時から午後三時まで、山形市のビッグウイング交流サロンで開催しました。相談員となった企業は、県内各地の林業事業体、木材加工会社、林業関係団体の二十四社です。

来場した相談者は男性十八名で、内訳は農林大学の一年生が十人、一般が八人でした。年代は十代から六十代までの各世代で、学生が十人、在職中が五人、離職中が三人でした。

相談者は初めに林業の仕事の概要や資格取得の講習会などの案内をDVDで見た後、プロフィールを書いた五枚複写の相談者シートを持って企業を廻りました。企業へは一〜六人が相談に行き、延べ相談人数は八十人になりました。

### ◆相談者の感想

相談者からは「具体的な林業の仕事はどんなものか」、「待遇はどうか」、「やりがいはいくらか」、「冬場の仕事はあるか」など多様な質問や疑問が投げかけられ、企業の相談員はパンフレットや画像を使って丁寧に応対し

ました。

相談者からの感想は「林業に就きたいと思っていたので、このような機会があったて助かった」、「林業の良い面、悪い面が実体験を含めた話でわかりやすかった。大変参考になった」などで、林業就業を考えるうえで役に立ったようでした。



相談会の様子

### ◆おわりに

企業からは相談者が少なかったという感想があったことから、今後、休日開催や、PRの方法、他のイベントの抱合せなど検討する必要があります。来年度も参加したいという企業が多いことから、県や関係団体と連携をとりながら、今後とも事業を進めてまいりたいと思います。（県林業労働力確保支援センター）

**森林の整備と環境保全型林業経営に努め、  
山村地域の雇用創出と林業の振興に貢献します!**

**公益財団法人 山形県林業公社 理事長 細野 武司**

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265番

TEL 023-666-6348 FAX 023-689-9348 E-mail : y-ringyo@atlas.plala.or.jp

ホームページ : <http://business3.plala.or.jp/y-rkousy/>

# やまがた木育推進方針を策定しました

## ◆はじめに

県では、木育を推進するため、平成三〇年三月に「やまがた木育推進方針」を策定したので紹介します。

## ◆やまがた木育に取り組む背景

平成二七年度から二八年度にかけて行った「やまがた緑環境税の評価・検証」や平成二八年度に制定された「山形県の豊かな森林資源を活用した地域活性化条例」(通称「やまがた森林ノミクス推進条例」)などに、「木育の推進」が明記されたことから、県内に広く木育を展開するため、その基本的な考え方や進め方などを定めることとしました。

このため、県では学識経験者や教育関係者、森林環境教育実践者などの外部委員で構成された「やまがた木育推進委員会」を設置し、様々な立場からの意見をお聞きしながら、関係各課から構成された「やまがた木育推進ワーキングチーム」において検討を重ねるとともに、「やまがた緑県民会議」などからも意見をいただき、「やまがた木育推進方針」を策定しました。

## ◆「やまがた木育」の基本的な考え方

「やまがた木育」は、森や自然の大切さを学び、森や木の文化を見つめ直し、森との絆を深め、暮らしの中に木を活かすもので、人生のあらゆる場面を通して、乳幼児からお年寄りまでの全ての世代で取り組んでいきます。そして、先人からの贈りものであると同時に、未来の世代からの預かりものである。「美しい豊かな森や自然」と「自然との共生の文化」というやまがたの宝を未来の子ども達に引き継いでいきます。

また、「やまがた木育」を推進すること、森からの恩恵を受けるのみではなく、一人ひとりが森と共に生きていくことや、木を活かす暮らしの大切さを改めて理解し、行動を起こすことができる人づくりを指します。特に、「やまがた木育」に取り組むことにより、幼い頃から育まれる森や自然に感謝できる豊かな心は、子ども達の視野を広げ、地域を愛する気持ちの礎になります。「やまがた木育」が目指している人づくりは、「山形県環境教育行動計画」で、理想的な人間像としている「山形愛の人」

を育むことにつながります。

## ◆「やまがた木育」の進め方

「やまがた木育」は、全ての世代で、森や木に「触れる」「創る」「知る」という三つの活動を展開していきます。乳幼児からお年寄りまで世代間の交流や活動を通じた人と人との関わりにより、充実した内容になることが期待され、これまでの経験や森や木に対する認識・理解度に合わせて展開していきます。

また、やまがた緑環境税を活用しながら、民間団体や市町村の「やまがた木育」の取組みを支援するとともに、積極的に情報発信を進めます。

## ◆「やまがた木育」の推進体制

「やまがた木育推進委員会」や「やまがた木育推進ワーキングチーム」における推進対策の検討のほか、県の関連する部門や市町村の関係機関と連携して、「やまがた木育」を推進していきます。

## ◆平成三〇年度の取組み

「やまがた木育」を広く浸透するため、七月に「やまがた木育」講演会やワークショップの開催、このほか子ども達の発達段階に応じた教材開発を実施していきます。その際は、林業振興課が実施している「しあわせ4ウッド」運動の幼児期から木に

親しむ(スタート)の積木配布と連動しながら進めていきます。

## ◆おわりに

県内では、これまで「木育」という言葉を使わないまでも、森林環境教育や木材利用の意義の啓発に取り組んできたところです。

今後は様々な主体や施策と連携を図りながら、「やまがた木育」が広く県民に浸透するよう普及に努めてまいりますので、「やまがた木育」への御理解と御協力をお願いします。  
〔県みどり自然課〕

## 「やまがた木育」のイメージ

(森林環境教育+木づかい)





## 「二期生卒業」「二期生就職活動・卒業論文」

◇除雪でできた雪の壁も、暖かな春の陽気で驚くような速さで融けていきます。今回は、卒業や進級など、新たな門出の時期を迎えた林業経営学科の様子をお伝えします。

### ○一期生十五人が卒業（二学年）

平成二十八年四月に新設された林業経営学科の一期生十五人が三月九日、他の六学科の学生四十五人とともに、晴れて卒業式を迎えました。スーツや着物・袴に身を包んだ学生たちは、石川校長から堂々と卒業証書を受け取り、二年間の学業や寮生活の思い出を胸に、新たな一歩を踏み出しました。



林業教室にて集合写真

今後、森林資源を循環利用していくためには「育てる林業」と「使う林業」、そのスタンスは50・50でなければなりません。将来、充実した森林資源の育成と効率的な木材利用を担うリーダーとして、彼らに大きな期待を寄せたいと思います。

### ○二期生 就活はじめました（一学年）

平成三十年二月八日、山形国際交流プラザ（山形市）において開催された「森林の仕事ガイダンス」に一年十名が参加し、いよいよ二期生の就職活動が始まりました。

昨年度は、農林大学校が主催し、学内の「緑風館」を会場に、本校学生を対象とした「合同会社説明会」でしたが、今年度は山形県林業労働力確保支援センター（県みどり推進機構）が開催する一般向け企業面接会への参加となりました。

会場には県内各地から、森林組合や民間素材生産業者、製材業者など二十四の事業体が集まり、企業や法人が求める人材と学生が希望する職種とのマッチングの場となりました。とは言え、学生の中には希望する



事業体の説明にメモを取る学生

職種が定まりきらないものもあり、そういった学生にとっては、幅広く様々な業務内容や就業環境を並べて聞くことができたことで職種や就職先を絞り込む良い機会となりました。また、今回のガイダンスで就職先の第一候補を決めた学生もおり、四月以降にインターンシップを行う予定です。

### ○二期生 卒業論文はじめました（一学年）

平成三十年三月五日、農林大学校七学科による「卒業論文計画発表会」が開催され、各自がテーマを設定した理由や意気込み、今後の計画などを発表（宣言）しました。

卒業論文は、二年間の実践学習の成果を集約するもので、技術のみならず、経営発展の構想や地域や環境との関

わりを含めた課題を設定し、実験・実習や調査・研究等に取組むものです。取組みを通じ学生は、知識・技術の習得はもとより、論理的な考え方や調査・研究の方法、結果のまとめ方、論文の書き方、発表のしかた等の能力を養い、課題解決の能力向上を図ります。

今年のテーマは十課題。うち一つは新規の課題で残りの九課題は一期生から引き継ぐものです。テーマの選定にあたっては、やりたいという本人の希望と、将来必要となるスキルを磨けるか否かを重視しました。課題をいくつか紹介します。

「高性能林業機械を使った間伐や皆伐の作業システムの効率性を検証する課題」これは将来、高性能林業機械オペレーターや現場の指揮者を目指す学生が取り組みます。また、今後普及が期待される「ロープウインチの安全作業マニュアルづくり」これは林業経営学科の後輩や木の駅出荷者の利用を想定して、新規で取組む課題です。

基本的に最上地域中心の調査・研究となりますが、県内各地へ情報収集に出かけたいと考えていますのでその時のご指導よろしくお願ひします。  
〔山形県立農林大学校〕



みどりのページ

平成29年度緑化推進事業研修会  
「緑のふるさとづくりセミナー」  
を開催しました

◆内容

第1部 講演

演題 暮らしに根ざしたふるさとづくり「身近な自然との付き合い方」

講師

樹木医・森林インストラクター

石井 誠治氏

第2部 緑のふるさとづくり事例紹介

第3部 平成30年度緑化推進助成事業ガイダンス

業ガイダンス

第1部では、樹木医や森林インストラクターなどの資格をお持ちで、NHK文化センター等での自然解説が特に人気の石井誠治先生を東京からお招きし、ご講演をいただきました。

まず初めに、日本人と木の文化について触れられ、漆塗りの発祥地が日本であることや、世界で最初に土器を使い始めたのも日本であることなどを紹介していただきながら、もつと日本の文化を見直し、誇りを持つべきだということを教えていただきました。



石井誠治先生の講演

アたっぷりに話していただきました。もつと石井先生のお話を聞きながら、とても有意義な講演となりました。第2部は、当財団の平成29年度助成事業を活用した取組みについての紹介です。

緑化ボランティア活動を支援する「緑化推進事業」からは、成安癒しの川（白川）を守る会（山形市）による「成安いきいき桜公園維持管理事業」について、事務局の伊藤文安氏より発表していただきました。同会は、平成21年に山形新聞・山形放送の8大事業「最上川さくら回廊事業」で植樹した約50本のサクラの剪

- ◆ 期 日 平成30年3月5日（月）
- ◆ 場 所 山形県高度技術研究開発センター
- ◆ 主 催 (公財) 山形県みどり推進機構
- ◆ 後 援 山形県、山形市、山形新聞・山形放送、(株)エフエム山形、(公財)山形県林業公社、(一社)やまがた樹木医学会、やまがた公益の森づくり支援センター、山形県森林インストラクター会
- ◆ 参加者数 143名



会場の様子

そして、全国的な山形のイメージである「さくらんぼ」は、味わうだけでなく、その花も観賞価値が高いということ、霞城公園は全国的な桜の名所になるポテンシャルは非常に高く、置賜の桜回廊なども組合せて売り込むことにより、県外から更に多くの花見客を呼び込めるのではないかとアイデアなどをユーモ



会員による草刈り作業



みどりのページ



土壤改良作業の状況

定や消毒、下草刈りなどを行い、桜公園の維持管理に取り組んでいます。桜の成長を見守りながら地域の絆を深める活動は、他の地域のモデルになるような取り組みであり、参加者の皆さんも参考にされているようでした。

「郷土の名木・古木等保全事業」からは、天童市指定天然記念物「熊野神社の大ケヤキ」の樹勢回復について、担当された樹木医の枝松吉男氏より発表していただきました。平成28年度にスタートした本事業は、緑豊かな地域のシンボルとして天然記念物樹木の保全を支援するもので、

県内の樹木医に診断・指導をお願いしています。この大ケヤキは、幹の腐朽が進行して樹勢が衰え、枯れ枝も目立ってきたことから、土壌の改良や枯れ枝の切除等を行いました。このような処置により樹勢が少しでも回復し、これからも地域のシンボルとして親しまれていくことを願っています。

第3部では、平成30年度助成事業の募集内容について、担当者より説明しました。

終了後に行った個別相談会でも多くの相談が寄せられ、「緑のふるさとづくり」へ取組む皆さんの熱意が感じられるセミナーとなりました。

### 県民の森・源流の森が まもなくオープンします！

山形県みどり推進機構が指定管理者となつている「県民の森」と「源流の森」は、冬期の閉館期間がまもなく終わり、4月29日にオープンを迎えます。

それぞれに、オープンを記念した楽しいイベントを次のとおり企画しています。また、オープン日から5月6日までの連休期間中は休館日なしで開館しますので、春を迎えた県

民の森・源流の森へ、お誘い合わせの上ぜひお越しください。

### ◆県民の森オープンニングイベント

【日時】

平成30年4月29日(日)

午前10時～午後3時

【場所】

山形県県民の森(山辺町畑谷)

【主な内容】

- ・春の森林案内
- ・青空クラフト教室
- ・昔遊び体験

・ミニSL春の大運転会

・花の苗木プレゼント

(先着200名様)

・大首根餅つき保存会による

「うぐいす餅」

・山野草などの即売会

### ◆源流の森オープンニングイベント

【日時】

平成30年5月13日(日)

午前11時～午後3時

【場所】

山形県源流の森(飯豊町須郷)

【主な内容】

- ・木のぼりツリーイング体験
- ・森の恵み抽選会
- ・楽しい体験教室

(冒険、陶芸、クラフト)

・キノコの植菌体験

- ・森の屋台コーナー
- ・西洋シャクナゲのプレゼント

(先着200名様)

※全国白川ダム湖畔マラソン大会、白川湖体験巡視も同日開催されます。

### ◇源流の森オープンウィークのご案内

源流の森では4月29日から5月6日までをオープンウィークとして開園し、この期間中は森のアトリエと冒険の森の施設使用料が半額になりますので、多くの皆様のご来場をお待ちしております。

(「公財」山形県みどり推進機構)

### 「緑の募金」にご協力いただいた 企業・団体のみなさま

(H30/2/1～3/15)

青山建設グループ、温海町森林組合、(株)エフエム山形、M木工、小国町森林組合、北庄内森林組合、(株)後藤工業、蔵王ロープウェイ(株)、天童市森林組合、西村山地方森林組合、最上広域森林組合、(株)モンテディオ山形、山形県森林組合連合会、山形市農業協同組合、山形商工会議所、米沢地方森林組合

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました

# 森林研究研修センターにおける 平成三十年度の研修について

## 【はじめに】

森林研究研修センターでは、①「やまがた森林ノミクス」の推進を担う森林経営者等の人材育成と後継者の確保、②試験研究成果の速やかな現地への普及とその指導の実施、③市町村森林整備計画及び森林経営計画の策定実行支援の三点を林業普及指導活動の重点取り組み事項としています。

## 【主な研修計画】

前述の重点事項を踏まえ、研修対象者ごとに、三つに研修を区分して研修計画を立てています。  
○森林組合、素材生産業者、林業士・指導林家等を対象とした『林業経営支援研修』で、下表の内容で計画しています。

新規研修として、架線系作業システムの導入検討や、ICTを活用した森林作業道の路線選定等の研修も計画しています。

○市町村、県の職員や林業普及指導員を対象とした『森林技術職員スキルアップ研修』で、内容は、森林作業道作設、刈払機操作、伐木造材操

作、造林、林業機械、特用林産等を計画しています。

○林業関係団体等からの依頼による『その他の研修』は、主に県森林組合連合会から依頼を受け、七月から十月にかけて森林組合、林業事業体作業員の一〜三年目のまだ経験年数が浅い職員に対し、造林、育林、間伐作業、立木調査、森林整備の省力化、木材流通と木材利用等の講義や現地実習を行っていきます。

## 【おわりに】

各々の研修について、詳細が決まりしだい、対象者に通知いたしますので、多くの方の参加をお願いいたします。〔森林研究研修センター〕



平成29年度森林作業道作設指導者養成研修の様子

### 林業経営支援研修（森林組合職員、素材生産業者、林業士・指導林家等）計画

研修名	開催日	場所	参加対象者	内容
林業生産性向上技術研修(新規)	6月5~8日 14、19日	現地 (鶴岡市温海地区)	普及指導員、森林総合監理士、森林組合及び林業事業体の職員	・架線系の知識、タワーヤーダの操作 ・架線系作業システム導入検討 ・ワイヤースプライス研修・現地見学
森林作業道作設指導者養成研修	6月 (4日間)	試験実習林 (西川町北山)	森林作業道作設オペレーター育成強化研修修了者相当(中級修了者等)	・森林作業道作設指導者のための森林作業道作設実践研修(座学及び機械操作研修)
指導林業士・指導林家等研修	9月 (2日間)	庄内管内	指導林業士、指導林家等	・庄内地方の林業と主要施策 ・現地視察
路網作設高度技能者育成研修(新規)	9月 (5日間)	試験実習林(西川町北山) 金山町	森林作業道作設技術の基本を理解し、一定以上の作業道作設経験を有する者	・現場オペレーターのための森林作業道作設実践研修(座学及び機械操作研修) ・ICTを活用した路網選定等
平成31年度林業士養成研修	1月 (2日間)	研修館(寒河江市)	青年林業士候補者	・山形県林業士育成事業実施要領第3(2)に定める養成研修
	2月 (2日間)	研修館(寒河江市)	指導林業士候補者	・山形県林業士育成事業実施要領第3(2)に定める養成研修
森林技術者技術向上研修	10月 3月	研修館(寒河江市) 現地	森林総合監理士、森林施業プランナー、森林組合職員	・素材生産システムの効率化 ・造林・保育の低コスト化 ・境界明確化、森林経営計画策定推進

森林とのかけ橋をめざす 総合アドバイザー

**(一財) 日本森林林業振興会 秋田支部**  
Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林づくり等活動を支援する法人です

秋田支部 支部長 木村大助

〒010-0001 秋田市中通5-9-49  
TEL 018(832)4040 Fax 018(835)6837

山形出張所 所長 木村大助

〒990-2473 山形市松栄1-5-41

「森林組合長に聴く」第8回は、西置賜ふるさと森林組合代表理事組合長細谷芳弘氏と、森林研究研修センター古川和史所長との対談です。

【対談者の紹介】

○西置賜ふるさと森林組合  
代表理事組合長 細谷芳弘  
西置賜郡飯豊町大字中在住。  
組合長3年目



所長・組合長になられて3年になります。組合経営に対する理念や考えなどありましたらお願いします。  
組合長・まず考えたことは、職員とのコミュニケーションをはかること。

それぞれの職員がどのようなことを考えているのかをつかまないといけないと思います。年一回職員との個人面談を行っています。面談の前に、仕事上の課題・提案や考えていることについて記入してもらい、それを見ながら行っています。結構本音を語ってくれます。

**全員が経営改善計画と実績を確認共有できるようなっています。**

所長・経営改善計画を見ると、役員が各役割やスケジュールを明確にし、全員で改善を図っていくという強い決意が示されていますが。

組合長・これは全体の計画で、ディスプレイして立ち上げたものですが、執務室には計画に対する月ごとの実績が掲示されています。そして全員が確認共有できるようにしています。

平成29年度の素材生産量の目標は7千m<sup>3</sup>ですが、実績見込みでは1万m<sup>3</sup>位になりそうです。今年白鷹町庁舎関係の仕事があったので、用材とチップ材の割合は、6対4ぐらいになりそうです。

所長・平成33年の目標値が1万3千6百m<sup>3</sup>になっていますが、主伐・間伐・国有林の割合などはありますか。  
組合長・経営検討会では、積み上げ

で数量を出していますので、内訳があります。

今、2班6人の作業員を3班9人に増やす計画を作っていますが、これに合わせて高性能林業機械を3セットに増やすことに少し迷いを感じています。機械は良い労働力と合わせ、初めて価値を生むもので、今はまだ、リスクがあるのでと考えると。

所長・県内でも3番目の森林面積を持つ組合の森林資源から考えると、6人と9人で悩むレベルではないと思います。

組合長・当然そういうレベルではないということはおわかりです。協力業者との関係もあり、近隣の組合の状況を見ても、なかなか厳しいことから、短期・長期の面から考えなければいけないということです。

所長・最初はレンタルから初めて、実力が付いたら購入という方法もあると思います。県内の先進組合でもレンタルを併用している事例もあります。参考にしてみてはいかがでしょう。ぜひ早く、目標を達成してほしいと思います。

**すべての材が活用できる。**

所長・置賜木材乾燥センターと組合はどのようなかわりがありますか。

組合長・組合は年間5千m<sup>3</sup>の素材を出荷する協定を結んでいます。A材の需要先として非常に期待しています。

所長・県内にはB材やC材の受け入れ先はできましたが、A材として出荷先があるのはいいですね。

組合長・すべての材が活用できるということで、作業工程も全幹集材を考慮したものに変わっていく必要があります。現場仕分けを行い、工場直送を進めていきたいと考えています。長井のバイオマス発電も稼働していますが、これにも対応できるようにしていきたいと考えています。



平成30年2月28日

西置賜ふるさと森林組合にて対談  
対談全文はセンターホームページで

「森林研究研修センター」

## 森の人紹介

### 山主さんの思いを込めた山づくり

北村山森林組合

小室 晃一さん



森林施業プランナーの小室さんを紹介します。小室さんは村山市在住、森林組合に勤務して六年目を迎えました。

大学卒業後、都内で会社勤めをしていましたが、子供のころから昆虫や生き物が好きだったこともあり、心機一転、それまでの仕事とはまったく畑違いの森林組合に飛び込みました。今は主に、森林整備受託事業の現場管理を担当しています。

北村山森林組合は、国や自治体、森林整備センターからの受託業務が事業の柱になっていますが、今年度初めて集約化間伐に取り組みました。場所は寺町赤沢団地（尾花沢市）で、約十ヘクタールを2カ年で間伐します。担当した小室さんも初めての経験だったため、施業提案書の作成から森林所有者への説明、施業の実施

から精算まで、すべてが手ざぐりでした。不安を抱えながらも、上司や同僚に相談しながら、また、他の森林組合からもアドバイスを受けながら、何とか今年度分の精算にめどが立ったそうです。「いろいろと苦労したけれど、山主さんの昔話や山に対する思いを聞いていると、山主さんの描く山づくりのイメージが自然に湧いてくる」と話します。そして「イメージどおりに山が仕上がりに、山主さんから喜ばれると苦労も報われた思いがする」と初めての集約化間伐を振り返ります。

北村山森林組合では、限られた人員の中ですが、今後も少しずつ集約化間伐に取り組んでいきたいと考えています。小室さんも、今年度の経験を活かしながら、山主さんの思いに沿った山づくりに取り組んでいきたいと話します。そんな小室さんの活躍を、山主さんをはじめ、たくさんの方が楽しみにしています。



集約化間伐を実施した寺町赤沢団地(尾花沢市)

〔村山総合支庁森林整備課〕

## 森の人紹介

### 新進気鋭の木工デザイナー

梅ヶ崎はれ工房

田中 晴樹さん



本業はデザイン、自分で納得のいくデザインを具現化するため自ら製作をし

ていたなら、いつの間にか木工作家になってしまったと、新庄市五日町で地元産の木材を使い木製品を創る田中晴樹さんは話します。

デザインコンセプトは、地元の木材を使い、地元の生活に合った物を、地元の人を使う、最上モダンが原点にあるそうです。田中さんの作品は、どれも色鮮やかな木材を使っているという特徴で、着色や染色は一切せず全て生地で表現しています。接着剤や塗装も生地が浮き出せるクリアで無害なものを使用しています。作品は生活の道具であり、使えば無くなるもの、燃やせば消えるもの、無害でなければならぬと田中さんは考えています。

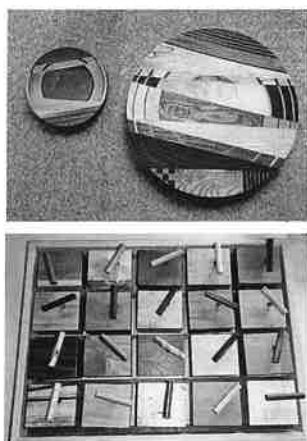
木材の調達には地元の製材所などのほか、街路樹を伐採した、埋れ木があった、と聞けば駆け付け分けられてらっているそうです。

田中さんは、「一人まちおこし」と称し、地域の活性化を目標に、地元の木材を、地元の人が加工し販売する活動を粘り強く続けています。田中さんの、最近のコンペ等の受賞作品を紹介します。

○第五七回日本クラフト展―NE X T―において、「大豊森器カジユアル(木皿)」が奨励賞を受賞

・寄木風に木材を接着し幾何学的に裁断することで素材の良さを表現

○ウッドデザイン賞2016において、「Mキューブ(オルゴール)」が入賞  
・ネジを回すと木片が曲を奏でる。



田中さんの作品は、新庄市五日町の工房のほか、寒河江市の「セレクトショップGEA」、秋田県角館町の「アート&クラフト香月」などでも展示販売をしています。

〔最上総合支庁森林整備課〕



# 森林組合理事・幹部職員研修会の開催について

## ◆はじめに

村山総合支庁と置賜総合支庁では、「やまがた森林ノミクス」を推進していくうえで原木生産の中核的な役割を果たしている管内の森林組合の理事や幹部職員等を対象に3回シリーズで研修会を開催しました。

### 一 経営改善編

●平成三十年一月十八日(水)

●南陽市文化会館小ホール

●参加者 四十三名

講演の第1部では、村山総合支庁森林整備課の佐藤恒治課長が「今後の林業・木材産業を展望する」と題して、日本の森林・林業施策の変遷や近年の林業・木材産業の動き、森林組合の目指すべき方向性と期待等について講演しました。

第2部では、山形県よろず支援拠点のコーディネーターである本間経営コンサルティング事務所の本間隆雄代表から「組織管理の基礎について」と題して、組織として求められる管理機能が発揮されていない事例の紹介や組織管理者としての押さえどころ等についてご講演いただきました。

### 二 林業のICT(情報通信技術)化編

●平成三十年二月十四日(水)

●村山総合支庁402会議室

●参加者 三十二名

講演では、金山町森林組合の狩谷健一参事から「金山町森林組合の取り組み」と題して、最上・金山地域で進められている林業成長産業化地域創出モデル事業のICT技術を活用した取り組み事例について紹介いただきました。

### 三 素材生産の低コスト化編

●平成三十年三月十四日(水)

●村山総合支庁402会議室

●参加者 三十四名

講演の第1部では、県森林研究所修センターの志藤彰研究企画部長が「県内森林組合の労働生産性の実態と課題」と題して、作業システムの効率化等について講演しました。

第2部では、温海町森林組合の鈴木伸之助参事と剣持喜哉係長から「温海町森林組合の取組みと全木利用低コスト作業システムについて」と題して、人材育成と生産性の向上に向けた取組みについてご講演いただきました。

### ◆おわりに

村山総合支庁では、原木生産の拡大に向けて、今後とも事業体の労働生産性の向上を目指した育成に努めていきます。

〔村山総合支庁森林整備課〕

## むらやま版・木のある生活 推進事業の取り組み

村山総合支庁では、有識者から成る木育推進協議会を設置し、幼稚園児から小学生を対象に、木に触れる体験を通して、木材の良さや地域の木材を使うことの大切さの理解を深める「むらやま版・木育プログラム」の開発に取り組んでいます。

平成29年度は、管内幼稚園や学童保育所に職員出前講座として出張し、「マイ箸づくり」を試行しながら取り組みました。

箸の材料は、サクラ、クルミ、ホオノキ、ヒノキ、サクランボ、ケヤキ、西山スギを準備しました。

参加した子ども達は「良い香りがする」「この箸でご飯を食べたい」と喜び、また、「ボクの箸は堅くて良いにおいがするんだよ」と木の違いに興味を持つなど、身近に木に触れる機会の必要性を改めて感じ取ることができました。

この度、本協議会では試行結果を受けて、箸づくりを通して、木材の色や香り、手触りなどを子どもが体感しながら、地域の木材を使うことが地域の森林づくりに繋がることを

学ぶ「木育体験ブックNo.1」を取りまとめました。

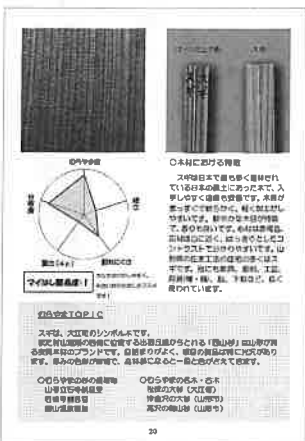
内容は、第一章 箸づくりプログラムの進め方・作り方、第二章 樹木図鑑・「森林」と「木」の知識、第三章 活用場面について、で構成されています。

今後、管内の幼稚園や小学校、子育て支援施設に配布し、「木育」を推進していきます。

〔村山総合支庁森林整備課〕



【木育体験ブックNo.1】



## 第3回もがみ木質バイオマス熱利用検討会開催 木質バイオマス熱利用による山村地域のビジネスづくり

### ◆木質バイオマス熱利用検討会

最上地域は県内の八割以上の木質チップボイラーが地域内に導入され、木質バイオマス熱利用が盛んです。今年度の検討会では、薪の利用拡大と新用途の開発に着目し、行政と業界関係者が連携・協議し、これまでの取組みを整理するとともに今後の展開の方向性について検討しました。

### ◆検討会の内容

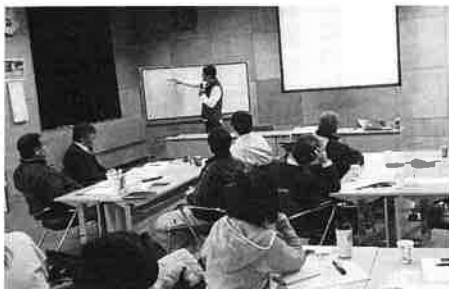
三回目の検討会は公開講座とし、三月八日に新庄駅併設の「ゆめりあ」で開催しました。最上バイオマス利用促進事業で実施した薪ストーブ実証試験の結果報告を行った後、百年の森林事業を実践している岡山県西粟倉村で、薪ボイラーを利用した温泉施設を営んでいる株式会社sonraku代表の井筒耕平氏より御講演いただきました。

西粟倉村は、市町村合併せずに地域の森林を再生することで自立の道を歩む決断をし、村をあげて起業者を育てており、ベンチャー企業や移住者が増え続けている村です。井筒さんも移住者の一人であり、村の森林

資源の二割を占めるC材を利用した薪生産を行っています。再生エネルギーは小水力発電、太陽光、バイオマスの複合が大切であり、数多いベンチャービジネスの一つとしてのバイオマスという流れで行うのが良いとのことでした。今後は家庭用薪ボイラーの普及を考えていらつしやり、「ニーズは創るもの」という井筒さんの言葉が印象に残りました。

### ◆おわりに

森林資源が多い点で共通している最上地域でも参考になる取組みですが、資源を活用しなくては、という義務感から始めるのではなく、起業する産業分野の一つがバイオマス事業という流れを取り入れていく必要があると感じました。



〔最上総合支庁森林整備課〕

## 広葉樹安全伐倒技術及びチェーンソー目立て研修会の開催

### ◆はじめに

チェーンソーについては、林業だけでなく、近年、薪ストーブの普及により、自家用薪の生産、きのこ原木栽培用のほど木採取等、幅広く使用されています。

しかし、誤った操作や伐倒方法等により秋から春先にかけて、一般県民が巻き込まれる事故が発生しております。このようなことから、広葉樹伐倒の注意点やソーチェーンの正しい目立て方法を習得し、事故の未然防止を目的に、一般県民を対象に、二月二〇日に新庄市農村環境改善センターにおいて研修会を開催しました。

### ◆内容

はじめに、林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部で安全指導されている安部一栄氏を講師に、チェーンソーの安全作業及び目立ての講義を行いました。

その後、実技として現場の第一線で活躍されている、最上広域森林組合の井上貢一氏と鈴木隼人氏を講師に、各自が所有しているチェーンソーの目立て作業と広葉樹の伐倒作業を行いました。

### ◆まとめ

今回の研修受講者は、実際にチェーンソーは使っているが、目立ての方法を知らなかった方が多く、昼休み中でも講師に質問するなど熱心が伺えました。

チェーンソーは身近で便利なものですが、危険なものであること、日頃のメンテナンスを怠ると事故になることを習得いただけたと思います。最上管内から伐倒中の事故が無くなるよう願っております。



〔最上総合支庁森林整備課〕

# 山形県木炭品評会・ 木炭講演会の開催

## ◆木炭品評会の開催

平成30年2月16日(金)、飯豊町中部地区活性化センター(飯豊町大字萩生地内)において、第23回山形県木炭品評会(山形県木炭文化協議会主催)が開催されました。  
今回は「白炭」11作品、「黒炭」4作品、「その他の木炭」5作品、合計20作品が出品されました。

## 第23回木炭品評会入賞者

賞	部門	受賞者
最優秀賞	山形県知事賞	白炭 山口 進さん(飯豊町)
優秀賞	全国燃料協会会長賞	白炭 樋口 仁さん(飯豊町)
	置賜林業推進協議会会長賞	黒炭 幸生炭焼伝承塾(寒河江市)
	山形県森林組合連合会会長賞	黒炭 米沢地方森林組合(米沢市)
優良賞	山形県木炭文化協議会会長賞	白炭 樋口勝典さん(飯豊町)
		白炭 渡部岩次さん(飯豊町)



入賞者の皆さん

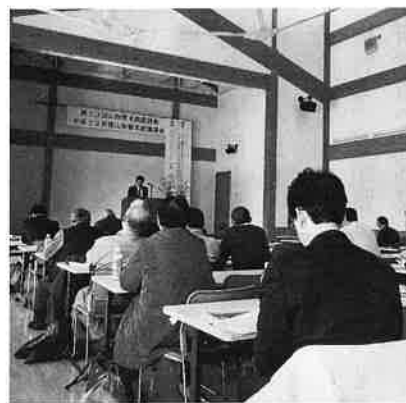
## ◆木炭講演会の開催

木炭品評会に引き続き、平成29年度木炭講演会を開催しました。70名の参加者の中、講師にチャコ

審査項目は、形状、品質、包装、重さなど計14項目あり、特に、形状では長さや直径等のバラツキ具合、品質では縦横裂や光沢、硬度や精錬度、音響(白炭)などについて実測や目視等による審査を行います。  
当日は、審査委員6名による厳正な審査が行われ、知事賞を含む6点の入賞作品が選ばれました。  
今回の入賞者のうち、知事賞の山口さんと全国燃料協会会長賞の樋口さんは、近年炭焼きに参入された方々で、良質白炭生産の後継者として期待されていることから、山形県木炭

文化協議会会長賞を受賞されたお二人の師匠も弟子の受賞に目を細めておりました。

1ルタイムス代表主幹の杉山博雅さんをお招きし、「今、消費者が求める炭と国内外の生産地が取り組む事例」と題してご講演をいただきました。



木炭講演会の状況

近年、炭火を売りにした外食店(焼肉店など)が急増していること、木質バイオマス発電用材との競合もあり原木が不足していること、良質な国産炭の評価は非常に高いことなどから、消費者ニーズにあった炭焼きと売り方(分類、表示等)を行うことが重要であると燃料業界の方ならではのアドバイスがありました。  
また、他地域の生産者との意見交換や優良木炭の見比べなどの取組も必要ではないかとの話もありました。  
置賜総合支庁では、今後も木炭生産業の文化と振興の普及啓発を推進していききたいと思えます。

(置賜総合支庁森林整備課)



## 「山菜・きのこ」を食べて健康生活!

きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。

旬の贅沢 やまがたの山菜・きのこ

## 山形県山菜・きのこ振興会

〒990-2339 山形市成沢西4-9-32 ☎023-688-8100

# 木造建築促進研修会

「置賜産材需給安定化対策事業」

## はじめに

平成30年2月20日(火)、置賜総合支庁西置賜振興局講堂において、「木造建築促進研修会」を開催しました。

この研修会は、市町が作成した「公共建築物等における木材の利用の促進に関する方針」に基づく公共建築物への木材利用を促進し、さらには、民間施設への波及効果も含め、木材全体の需要を拡大することを目的として開催したもので、置賜管内の市町職員や建築関係者など40名が参加しました。

## ◆内容

最初に、白鷹町企画政策課の企画主幹 永野徹氏から、「白鷹町における公共木造建築物整備の取組み」と題して講演いただきました。白鷹町では、現在、役場庁舎、図書館及び防災センターの機能を併せ持つ複合施設棟の建設に取組んでいます。この取組みは、公共建築に町内森林資源の活用と林業・木材産業の振興、

さらには、町民からの意見を反映させたものとなっており、これから木造の公共施設整備を計画している市町にとって大変参考になる内容でした。

続いて、(株)山田憲明構造設計事務所 代表取締役 山田憲明氏から、「小・中規模木造建築物の設計事例」と題して講演いただきました。山田氏は、白鷹町の複合施設の設計にも関わっていらっしゃいます。木造建築に取組むときは、「木材生産者や施工者との対話」、「専門家からの支援」、「設計者自身の構想と工夫」の3つのことを常に心がけて取組んでいるとのことであり、自ら手がけた木造建築物の設計事例を多数ご紹介いただきました。

## ◆おわりに

次年度以降も、木造の構造見学会を開催するなど、木材の利用拡大につながる取組みを行っていききたいと考えています。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

# 置賜森林ノミクス推進フォーラム2018の開催について

平成30年3月7日(水)、シエルターナンようホール(南陽市文化会館)を会場に「置賜森林ノミクス推進フォーラム2018」を開催しました。

このフォーラムは、置賜地域の課題を解決し、地域の林業振興を図るために定めた「置賜地域の林業振興の展開方向」の着実な取組みを推進するため開催するもので、昨年に引き続き2回目となり、約110名の参加がありました。

今回は、置賜地域の大きな課題である「森林境界の明確化」をテーマに、先駆的に境界明確化に取組んでいる白鷹町から「白鷹町森林・林業再生協議会の取組み」と題し事例報告をしていただきました。

続いて、愛知県新城市で森林境界の明確化や林業経営支援を行っている特定非営利活動法人



開催状況

「穂の国森林探偵事務所」の高橋理事長〔写真〕から「山主・地域を基礎とした森林資産の価値化」と題して講演をいただきました。森林境界、現況についてのデータづくりを行い、そのデータを元に地域山主・森林の集約化、林業事業者とのコーディネートを行うことで、地域が一体となって森林を活用する体制の構築を目指す取組みは、我々が目指す今後の森林経営の一つの形として、とても参考になるものでした。

この他に、林業振興の展開方向を実現していくためのこの一年間の取組みについての報告、置賜の豊富な広葉樹資源を活用した床材、木炭、その他木製品などの展示、山菜・きのこ消費拡大PRとして、山菜・きのこの汁のふるまいを行うなど盛り沢山の内容となりました。

このフォーラムが、置賜地域の林業振興に向け、参加者と方向性や意識・情報を共有する場となるよう引き続き取組みを進めてまいりたいと考えております。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

# 温海町森林組合「デイスカバー農山漁村の宝」に選定

## 「焼畑あつみかぶ」栽培で再造林の取組み

### ◆はじめに

温海町森林組合では、平成28年度から皆伐跡地で「焼畑あつみかぶ」栽培を活用して再造林につなげる取組みを行ってきました。

かぶの栽培による林地の有効活用と共に、持続可能な林業経営と森林の多面的機能の維持を図る「資源の循環利用」を目指しています。

この取組が、山村地域の活性化等に向けた模範であるとして、この度東北農政局「デイスカバー農山漁村の宝」に選定されました。

### ◆背景とねらい

当地域の人工林は約8千haの内、利用可能な50年生以上が80%を占め、若い林分が極めて少なくなっていることに加え、近年のバイオマス発電等により地域材の需要が非常に高まっています。

また、温海地域に4百年以上前から続くスギの皆伐跡地での伝統農法である「焼畑あつみかぶ」栽培は、高齢化等で難しい状況となっ

ています。こうした背景から、当組合はかぶ

の販売収益を再造林等の経費に補填することで森林所有者の負担軽減を図り、再造林の促進を図る仕組みを考え、鶴岡市の支援を受けて取組みを行ってきました。

### ◆取組みの内容

具体的には、当組合が集約化施策の中で伐期にあるスギ林の皆伐を提案し、伐採後約2haの林地を森林所有者と10年程度の経営管理協定を締結して借受けします。その内約1haに「焼畑あつみかぶ」を栽培して、再造林から下刈まで行うこととしています。

作業は、前年度に皆伐した跡地で山焼の地拵えを行い、お盆前後に焼畑にして播種し、10月中旬〜12月の降雪期まで収穫します。再造林は収穫途中の11月下旬に行います。

また、栽培作業には2名を期間雇用し、地力と灰を利用して無肥料・無農薬で育て、販売は地元JA等のほか、新たな販路として関東・関西・九州にまで出荷し、さらに葉付きなどで付加価値を高め収益の拡大に努めています。

今年3年目を迎えますが、首都圏の販売先等から取組みに共感する声が多くあがり、視察や見学等で地域の交流も盛んになってきています。



鼠ヶ関地区での焼畑の様子

### ◆おわりに

この取組みは、森林資源の循環利用のみならず、伝統農法の継承、ブランド化の確立、雇用の創出等による地域の活性化など多くの効果をもたらすものと期待されています。

今後も山村地域の活性化に向けてこの「温海モデル」を進めてまいります。

〔温海町森林組合〕



収穫間近の焼畑あつみかぶ



## 緑の募金 春募金期間 4月1日⇨5月31日

皆様からのご好意により寄せられた「緑の募金」は、皆様の自主的な「森林づくり・緑づくり」活動のために役立てていくこととしております。

主に、学校や公園で行う身近なところの緑化や、林業まつりなどのイベントの開催、里山での森づくり、川上・川下地域の交流による森づくりなどの森林整備に役立てられています。

ふるさとの緑の推進に、私たちは取り組んでいます。

公益財団法人 **山形県みどり推進機構**

〈事務局〉〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265 TEL(023)688-6633



# 人事異動

平成三十年四月一日付けで次のとおり発令になりました。

## 【農林大学校】

▽准教授(林業経営学科) 齋藤朱美

## 【森林研究研修センター】

▽木材・林業経営主幹(兼)森林経営指導部長 柴田一▽研究企画部長(兼)農業技術環境課温暖化技術専門員 福島弘幸▽総務主査 荒木隆博

▽研究員 高橋文▽技師 高野雄太

## 【林業振興課】

▽部長 駒林雅彦▽次長 高橋雅史

▽森林保全主幹 梅津一寿▽副主幹(兼)課長補佐(林政企画・森林計画担当) 福井克▽課長補佐(森林ノミクス推進担当) 伊藤奈津子▽課長補佐(木材産業振興担当) 菅原隆志

▽林政企画主査 浅野浩▽森林ノミクス推進主査(兼)工業戦略技術課林工連携推進主査 杉山秀喜▽森林保全主査 清野典明▽林道整備主査 海鉾清▽木材産業振興主査 荒木龍平▽主査(森林整備担当) 志齋和貴

▽主事(予算担当) 高橋雄大▽技師(森林ノミクス推進担当) 佐藤聖子

▽技師(森林整備担当) 成澤慎太郎

▽技師(木材産業振興担当) 荒澤佑樹

▽調整主査 鈴木雄大

▽調整主査 鈴木雄大

樹

## 【農政企画課】

▽調整主査 鈴木雄大

林業・木材産業振興室室長補佐(木材流通対策担当) 片桐政和▽林業・木材産業振興室室長補佐(普及担当) 菅井泰之▽治山林道主査 間宮敦

▽林業・木材産業振興室木材流通対策主査 増川栄一▽森づくり推進室技師(里山造林担当) 新野仁崇

▽置賜総合支庁森林整備課

▽課長 鈴木立男▽森づくり推進室長 大築和彦▽森づくり推進室長補佐(里山造林担当) 高橋幸治▽治山林道主査 鈴木貴雄▽森づくり推進室主査(里山造林担当) 佐藤瑞穂

▽主任林業普及指導員(普及担当) 須藤泰典▽技師(林政企画担当) 松木利夫▽技師(治山林道担当) 藤田麻矢▽森づくり推進室技師(森づくり担当) 片桐峻汰

▽庄内総合支庁森林整備課

▽森づくり推進室長 伊藤信▽課長補佐(林政企画担当) 志藤彰▽森づくり推進室室長補佐(里山造林担当) 尾形俊成▽治山林道主査 渡辺智之

▽専門林業普及指導員(普及担当) 仁藤敬喜▽主査(治山林道担当) 佐藤充▽技師(治山林道担当) 佐藤日和▽森づくり推進室技師(森づくり

担当) 狩野和也▽森づくり推進室技師(里山造林担当) 横須賀龍彦▽森づくり推進室技師(里山造林担当) 瀧澤逸

【環境エネルギー部みどり自然課】

▽課長補佐(みどり県民活動推進担当) 日沼賢尚▽みどり県民活動推進主査 中野けい子▽主事(みどり県民活動推進担当) 佐久間慎介

【会計局工事検査課】

▽検査専門員(庄内総合支庁駐在) 鈴木俊行

●退職者

▽森林研究研修センター 木材・林業経営主幹(兼)森林経営指導部長 藤井博喜▽森林研究研修センター専門研究員 鈴木千由紀▽村山総合支庁森林整備課 課長 佐藤恒治▽最上総合支庁森林整備課 課長(兼)森づくり推進室長 梅津勘一▽庄内総合支庁森林整備課森づくり推進室技師 伊藤健吾

▽課長(兼)森づくり推進室長 石川浩▽林業・木材産業振興室長 土屋隆一▽課長補佐(林政企画担当)(兼)